



歴史的建造物や伝統技術を研究、文化財を未来へ繋ぐ

つるおか のりよし

## 家政学部 生活造形学科 教授 鶴岡 典慶

国宝清水寺本堂など文化財建造物の修復調査

建造物の構造を知り災害に備える、文化財防災の研究

コメントできる  
研究領域

日本建築史

伝統建築・技法

文化財修復

文化財防災

京都女子大学は、教員の研究活動や社会連携など“社会のための女子大学”の姿をお伝えするニュースレターを発信しています。今回は、国宝や重要文化財など歴史的建造物保存修復の専門技師を経て、伝統建築の構造技法や伝統技術について研究を続ける、生活造形学科の鶴岡典慶教授をご紹介します。

### ■火災で焼失した清水寺は、なぜ短期間で再建できたのか？伝統建築・伝統技術を研究、文化の保存に繋げる。

鶴岡教授は、寛永年間に再興された清水寺の建築的特徴について調査を続けています。清水寺は江戸時代の初めに火災に遭い、本堂をはじめ伽藍の中心部分が焼失しましたが、わずか3年余りの短期間で10棟以上の建物を再建しました。鶴岡教授は、清水寺の半解体修復に携わる中で、建物にあった墨書きや見えない部分の構造、木材の組み方などから、3グループ程の職人集団が分担して工事に関わったため、短期間で再建できたのではないかと考察しています。

また鶴岡教授の担当する科目「伝統技法演習」では、学生達が様々な分野の職人の伝統技法を学びます。講義で取り上げる伝統技法は、清水寺本堂の屋根にも使われている檜皮葺（ひわだぶき）や宮大工の組手技術のほか、左官、畳、石積みなど、今では希少となった職人の技術です。檜皮葺の見学では、竹釘で檜の皮を屋根に打つ体験も行っています。

### ■慶長伏見地震も倒壊しなかった東福寺。構造を知り災害に備える。世界遺産や国宝の防災・防犯対策の調査も。

安土桃山時代の慶長伏見地震では、京都の社寺の多くが倒壊しました。しかし、東福寺では建造物の倒壊がほとんどありませんでした。鶴岡教授は、倒れた建造物と倒れなかった建造物の差はどこに起因しているのかを立地を含めて調査し、南海トラフなどの地震に備えた文化財修復について、構造専門の研究者とともに共同研究を行っています。

また鶴岡教授は、文化庁からの委嘱を受け、2020年から京都府内の世界遺産や国宝建造物の防火・防犯対策（自動火災報知設備・消火設備・避雷設備・防犯センサーなどの設置状況や防災体制）の調査を行っています。

### ■“東洋のベネチア”と呼ばれ、昔ながらの舟屋が連なる漁師町。「舞鶴市吉原地区」の町並み保存対策調査。

鶴岡教授は、2021年度から学生達とともに舞鶴市吉原地区の形成と町並み景観に関する調査を行っています。江戸時代から漁師町として栄えた吉原は、入江に沿って狭い間口の木造の舟屋が密集して軒を連ね、昔ながらの佇まいをとどめています。“東洋のベネチア”とも呼ばれ、江戸時代末期から昭和前期の伝統的な建造物が残る貴重な町並みです。

吉原は、享保12年(1727)年の大火により、田辺城の城下町から現在の舞鶴西港付近に移転しました。その際、城下町の東西に並んでいた東吉原と西吉原の町並みは、ほぼそのままの地割（土地の区画）で港付近の南北に移されました。しかし南北になっても、地名は東吉原と西吉原のままで残っており、これは全国的に見ても非常に珍しい事例です。

2023年末には、これまでの調査結果をまとめた報告書が完成。今後は、学生達が中心となって吉原の町並みの素晴らしさを地域の皆さんに再認識してもらう活動をスタートします。高齢化が進み空き家が増加する中、住み続ける人を増やし、昔ながらの町並みを維持する体作りに取り組んでいきます。

#### 鶴岡典慶（つるおか・のりよし） Profile

<http://gyouseki-db.kyoto-wu.ac.jp/Profiles/12/0001143/profile.html>

略歴 1960年生まれ。関西大学工学部建築学科卒業、関西大学大学院工学研究科中退。京都府教育庁文化財保護課にて文化財建造物の専門技師として、国宝本願寺飛雲閣や国宝清水寺本堂、国宝東寺御影堂をはじめ上賀茂神社、下賀茂神社の社寺関係から同志社クラーク記念館などの近代建築まで、200棟近くの国宝・重要文化財建造物の保存修理などに従事。2020年から京都女子大学家政学部 教授、2021年から生活デザイン研究所所長。

論文 『1596年慶長伏見地震における東福寺の被害に関する分析（その1）地盤の微動計測』

『同（その2）構造物の微動計測』（共著/2022年/日本建築学会大会（北海道）学術講演梗概集C-1/日本建築学会）

『寛永年間再興の清水寺諸堂における建築的特徴について』（単著/2022年/日本建築学会大会（北海道）学術論文梗概集P-2/日本建築学会）

<本件に関する報道関係者の皆様からのお問合せ先>

・京都女子大学入試広報課 岡橋・竹繩

TEL : 075-531-7054 FAX : 075-531-7222

・京都女子大学広報デスク（プロンジング・ポート内）福嶋・井上

TEL : 06-4391-7156 FAX : 06-4393-8216

・京都女子大学HP <https://www.kyoto-wu.ac.jp>